

令和6年度 卒業式・修了式 理事長挨拶

はじめに、ご多用にも拘わらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。本日、卒業式の挙行に際し、学園を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

本日卒業を迎えられました皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。皆さんの大学生活の半分くらいはコロナ禍にあり、学生として思うような部活動や研究活動が出来ず苦しい日々であったと推察致します。しかし、本日ここに無事、卒業を迎えられましたことに心から安堵致しております。また、保護者の皆様におかれましても待ちわびた卒業式であり、喜びもひとしおでございます。心からお祝いを申し上げます。

日本は戦後80年を迎え戦争のない生活に平和を感じている一方で、米不足に悩まされ様々な物価の高騰や円安、また闇バイトによる詐欺や強盗など決して安全とは言えない状況、さらには少子高齢化の急速な変化など先行きに不安を感じる今日であります。

さて、私事ですが、私は1966年に本学に入学致しました。約60年前になります。東京の大学への進学と期待に心弾ませてきたところが、周りは畑と雑木林が多く、草だらけの陸上競技場と校舎が一つ、床の抜けそうな記念館と体育館でありました。校舎より目立っていた古びた寮での生活が始まり何か夢破れるような思いをしたことが忘れられません。そうした施設の不備はあったものの、教鞭を執っておられた教授陣は当時の体育学を牽引しておられた鶴岡英吉、宮畑虎彦、戸倉ハルといった教科書を著わしている方々であったことが、のちに自分の大きな自信になったことは言うまでもありません。そうしたことから、常々学園は、学生の勉学に必要な立派な教授陣と施設の整備を含む環境を整えるのが大きな役割とっております。幸いにも本学は深代学長をはじめとする教授陣がそれぞれの分野で名を成す方々であると自負しております。

学園が100周年記念として建設しました施設は学生ファーストとして、体育施設はもちろんのこと教室のみならず学生が集える空間を盛り込んだのはそういう思いがありました。皆さんは在学中充分使用できなかったかと思いますが、卒業後は卒業生として遠慮なく、皆さんの研究活動や演技発表など様々な活動にご利用ください。それが在學生と卒業生との交流や帰属意識を高めるためにも良い機会になりましょう。私学はそうした卒業生の活躍や母校への多大なるご支援とご協力があって成り立つものです。若い時は無理であっても余裕が出来た際には是非ともご協力をお願い申し上げます。

皆さんの母校がこの先も継続し体育の旗艦大学であり続けるよう学園も努力して参ります。

創立者である二階堂トクヨ先生は100年も前にイギリスに留学し、ヨーロッパの新しい体育思想と方法論を推進しようと、日本女子体育大学の前身であります二階堂体操塾を創立しました。トクヨ先生は創立に際し生理学、衛生学、解剖学をはじめとする広大なる学問領域から日常的な身だしなみについても心を配って指導しておりました。また、男性と対等・平等である女性の為の家庭教育や社会教育にまで視野に入れた女子教育を目指していたわけです。近年はDXやAIの進歩によって人々の暮らし方に大きな変化が生まれております。しかし、どれだけそれらが進歩してもヒトの心のあり様と健康に関してはアナログの世界と思っている一人です。

卒業を迎えた学生の皆さん、皆さんはこの4年間、2年間本学でどんなことを学習し、どんなことが身に付いたでしょうか。未だ満足いく成果が得られていない方は、今後も継続して研鑽することを希望します。卒業後は大人として自立し、社会人としての知識・教養・判断力を身に付け、地に足を付けて進んで行ってください。そして、どうか胸を張って、本学の卒業生であることに自信と誇りを持ち、女性という枠に捕らわれず志を高くもって、新しいステージでご活躍ください。

結びに当たりまして、これまで学生の就学をお支え頂きました保護者の皆様、教職員の皆様に心から感謝いたします。そして、卒業生の皆さんの将来が健康で明るく、有意義なものになることを願って挨拶いたします。

令和7年3月15日

学校法人二階堂学園

理事長 石崎 朔子